

【鶴見区】令和元年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和元年 6 月 3 日（月）午前 11 時 05 分 ～ 午前 12 時 40 分
場 所	鶴見区役所 6 階 9・10 号会議室
出席者	<p>【座 長】井上さくら議員</p> <p>【議 員：6 名】渡邊忠則議員、古谷靖彦議員、尾崎太議員、 有村俊彦議員、東みちよ議員、山田一誠議員</p> <p>【鶴見区： 名】森健二区長、松本智副区長、花内洋福祉保健センター長、 菊池孝福祉保健センター担当部長、 山川博子福祉保健センター医務担当部長、 山本尚樹鶴見土木事務所長、山田裕之鶴見消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和元年度鶴見区鶴見区の予算について 2 令和元年度鶴見区個性ある区づくり推進費予算について 3 令和元年度個性ある区づくり推進費 自主企画事業費等執行計画について
発言の 要 旨	<p>有村議員：地域では防災や減災に対する意識の薄れを危惧したり、より良い防災計画策定の思いはあるが、区の調整する機能が弱いという意見も聞かれる。現状では、どのように対応しているのか伺いたい。</p> <p>今仁総務課長：現状は、地域の会合や要援護者施設の研修など様々な機会において、啓発や講話を行っている。引き続き、災害リスクを的確に捉えた啓発を各地域で実施していく。</p> <p>有村議員：地域の方の思いを拾い上げる仕組みをつくってほしい。</p> <p>有村議員：クルーズ客船と地域との連携について、客船の乗客を対象にするのか客船を見に来ている人を対象にするのかターゲットにより大きく目的や方法が変わってくるが、その整理や考えを聞かせてほしい。</p> <p>飯島区政推進課長：確かに対象を明確にしていかないと効果的ではないので、ターゲットをどこに向けたら、より効果的になるか更に検討していくが、大黒埠頭客船ターミナルがオープンして鶴見区が市民や区民はも</p>

ちろん、多くの人に注目される大きな機会なので、この機会を逃さず活性化に繋げていきたい。

有村議員：今年開催されるラグビーワールドカップや来年のオリンピック・パラリンピックも視野に入れながら、「千客万来つるみ」に繋げていただきたい。

有村議員：多文化共生事業の日本語ボランティアに関連し、前回の区づくり推進市議員会議で鶴見区内の私立学校とも情報交換してほしいとお願いしたが、何か進んでいるか。

岩田地域振興課長：日本語ボランティアという形ではないが、日本文化を海外の方に知っていただくということで、民間のNPOを介して東高校の茶道部にお茶の指導をしていただいた。

有村議員：私立学校は区役所と接点がないと聞いているが、例えば、橘学苑高校の国際コースではニュージーランドに行って現地の地域ボランティアを経験しているので、身近な鶴見区で体験できれば良いと思う。引き続き情報収集しながら調整してほしい。

有村議員：寄り添い型支援事業のつるみプラス事業は大事な事業だが、青少年期に居場所がない子どもたちに行政がサポートしきれていないという課題がある。そのあたりのネットワークをしっかりとつなげてほしいが何か考えているか。

伊藤生活支援課長：生活保護の受給世帯で子どもが高校中退したという家庭はあるが、子ども本人と接点がない。家族や本人と相談する機会があれば接点を持って施設を紹介したり、関係機関との連絡会は年に数回あるが、具体的にそのような子どもを発見して繋げることは至っていないので課題となっている。

渡邊議員：CIQがオープンし、スカイウォークのイベントでは活気があったが、今後それをどう活かしていくのか区長の考えを伺いたい。

森区長：ゴールデンウィークには、大黒ふ頭に多くの方が来て鶴見区が世界の窓口になった記念すべきイベントになったので、客船ターミナルの新たなオープンを鶴見区の成長に繋げるように取り組んでいきたい。具体的には、大黒ふ頭への市営バスの便数が少ないことや駐車場の数が少

ないことなどの課題があるので、アクセス面の改善を図り、そのうえで客船に乗ってきた方や客船の見学客を鶴見区に呼び込み賑わいが創出できるように、千載一遇のチャンスを生かして区の活性化に繋げたいと考えている。

渡邊議員：鶴見区は外国人が多く、生活習慣の違いなどから問題も増えており、今後も増加傾向にあるが、鶴見区の現状と課題について伺いたい。

飯島区政推進課長：外国住民は、3月末現在 13,123 人で中区に次いで2番目に多い区となっており、1年前の30年4月末は12,370人なので年間で700人以上増加している。国籍では、中国、韓国の方が多いが続いてフィリピン、ブラジル、ベトナムとなっている。御指摘のとおり生活習慣の問題で地域との摩擦が起きることが懸念されるので、地域と共存していくために、生活習慣等のどのような支援をしていくかが課題と考えている。

渡邊議員：鶴見国際交流ラウンジではきめ細かく支援しており、今後も外国人住民が増え、今まで以上に支援が必要になるが、今後の支援の在り方について区長の考えを伺いたい。

森区長：区として各部署を横軸で結び、区一体となって、外国の方の出生から縦の時間を意識して支援をしていく。そのためには、きめ細かな情報提供が必要なので、まず、区役所にWi-Fiを設置し、ツイッターやメールマガジンなどの様々な手段を活用し、やさしい日本語等を使ってしっかり情報を届けるようにしたい。また、国際交流ラウンジを機能強化し、様々なケースに対応して相談ができるようにしていきたい。併せて、保育園、学齢期から高校、大学、就職まで様々なステージでこどもの成長にあわせて支援に取り組むとともに、地域コミュニティとの共生もサポートしていく。そして、外国の方々を鶴見区の魅力のひとつと捉えて多文化としてしっかり発信し、仲間としてやっていきたい。

渡邊議員：鶴見駅西口の喫煙所について、通行者から苦情が出ている。また、オリンピック・パラリンピックに向けて受動喫煙防止も強化されているが、喫煙所の在り方について考えを伺いたい。

峰資源化推進担当課長：西口の喫煙所については、周辺を歩行されている方から煙が強いという意見があり、構造的にも煙がこもってしまう状況

なので他の場所への移設を考えているが、移設先の適所がないという状況である。

渡邊議員：引き続き、対応してほしい。

山田議員：個性ある区づくり推進費は、地域状況や地域課題から導かれて予算を組み立てているが、課題等が明確になっていた方が各事業に有意義だと思うが、どうか。

飯島区政推進課長：これまで「安心」「ぬくもり」「活力」としていた枠組みの政策体系を考え直し、今年度の運営方針から「地域力の強化」「区内経済・活力の向上」「子どもから大人まで安心・元気に」「区民サービスの向上」といった枠組みに変えている。このような中で予算編成する際には、様々な場でいただいた地域からの声などを踏まえ、区が課題と考える事柄について、予算という形で表して議論する。横浜市全体でも区提案反映制度や区づくり推進費は特に区の独自性が発揮しやすい形になっているので、様々な課題を議論して予算編成に繋げて、ひとつひとつの課題に向き合っていきたい。

山田議員：商店街の支援に関連して、商店街や自治会の枠を超えた若い世代の取組に対する支援の考えはあるか。

岩田地域振興課長：経済局の商店街活性化イベント助成事業より補助限度額は少なくなるが上限 10 万円で商店街と自治会、商店街と学校といった商店街が地域団体等と連携して実施するイベントに対する補助経費を区づくり推進費に計上している。

山田議員：地域事情など様々な状況に応じて自由にやりたいという意見も商店街や区民からあるので検討してほしい。

東議員：防犯活動支援事業で子どもの見守り活動の定期活動は、どのくらいの頻度で行っているのか。

岩田地域振興課長：月に 1 回、毎月 10 日が子ども安全の日ということで、学校等と連携し、小学校下校時において見守り活動を実施している。

東議員：川崎市の事件を受けて、見守り活動の回数を増やす地域もあると聞いているが、回数が増えることについてボランティアの方への支援はあるか。

岩田地域振興課長：教育委員会や神奈川県警本部から見守りを重点化してほしいという依頼がある。一方で、回数を増やすと地域の方の負担も大きくなるということが懸念されるので、どのような形で行うのが効果的なのか局と相談して対応を考えていきたい。

東議員：区は、保育に対して様々な支援を行っているが、学童保育に対して、今後力を入れていく考えはあるか。

岩田学校連携・こども担当課長：放課後児童については、はまっ子からキッズクラブに転換することによって放課後児童の受入の幅を広げていきたい。

東議員：児童の親からは、放課後児童クラブに対する質の不安があるという話も聞くが、面積基準・耐震基準が規定され、経過措置として5年間の猶予が今年度末だが、基準の適合状況はどのような状況か。

岩田学校連携・こども担当課長：30年度末時点では8施設が基準不適合だったが、現時点では7施設が定員変更済、移転済または移転予定になっており、これにより基準適合する予定である。残りの1施設についても、今年度、新規・拡充された補助金の活用や、地域の方からの物件紹介等、御協力をいただきながら、年度内には全てのクラブが基準適合となるよう調整中である。

東議員：子どもの居場所づくりで地域ケアプラザや地区センターなどの区民利用施設の委託業者に子どもの見守り活動を業務に加えることで子どもたちの新たな居場所になると思うがいかがか。

岩田地域振興課長：区民利用施設の地区センター、コミュニティハウスでは、各指定管理者の裁量で自主事業として居場所的な機能を出している施設もある。また、区づくり推進費の自主事業で、青少年健全育成事業の青少年の居場所運営支援事業で地域や団体等の活動団体に対して区役所から補助金を交付し、月に1、2回地区センターを使って居場所づくりの活動を行っている。

古谷議員：災害時要援護者支援の仕組みづくりで情報共有方式が拡大していることは良いが、名簿掲載者を町内会が受け入れたとしても見守る体制までできていない。実際に災害が起きた時に要援護者は避難等が困難となるので名簿を渡すだけでは対応できないと思うが、どのような状況

か。

坪山高齢・障害支援課長：現在、町内会ごとに名簿を渡しているところだが、名簿を渡す時に取組の状況や困難な案件を聞き、併せて他の町内会の取組などの情報提供を行うなどの対応をしている。また、いつでも相談していただくように話している。

古谷議員：地域に名簿を渡して依頼するだけでなく、名簿登載者が災害時にどのような支援が受けられるか把握してほしい。

古谷議員：国際交流ラウンジの各種教室の日本語教室には託児がついているが他の事業には託児機能がないが、総合的な相談の窓口などにも必要ではないか。外国人区民が増えていることにあたって、国際交流ラウンジのニーズや役割が非常に大きくなっているが、どう捉えているのか。

岩田地域振興課長：国際交流ラウンジあるいは母体の YOKE と意見交換しながら考えていきたい。

古谷議員：ニーズを聞き取ったうえでどのように区でできるのか、あるいは局で実施できないのか相談してほしい。

古谷議員：三ツ池公園フェスティバルでは、警備に多くの消防団の方に協力していただいたが、一方で警備の規模について指摘があった。消防団の警備体制について検討していただきたいが、考えを伺いたい。

山田消防署長：警備の問題については前回の区づくり推進市議員会議の時にも話があり、消防団にその旨お伝えして消防団内部で検討を進めてきたが、アクセスの問題や会場の大きさ、いただいている役割、更に消防団として自主的に行いたいという意向で、今回の三ツ池公園フェスティバルの警備を行った。それぞれの会場によりふさわしい形で皆様の役に立てるようにしていきたい。

古谷議員：現場の声を聞き、検証することもしてほしい。

古谷議員：鶴見区は虐待対応件数が非常に多く、職員の兼務体制では件数が多いことをこども青少年局にも指摘してきているが、兼務体制について区の認識を伺いたい。

御小柴こども家庭支援課長：確かに鶴見区はここ数年虐待の対応件数が市内でも1位であり、多くの件数に対応している。専任か兼任かは非常に

難しい問題ではあるが、虐待と認識して介入されることに否定的な親もいることから児童相談所とは異なった広い視野で関わることで受け入れられるという区役所ならではの支援がある。今年度は、保健師を増員されるなど、人員体制の強化が図られつつあるので、引き続き対応を工夫していきたいと考えている。

古谷議員：相談窓口では、量的な工夫をして区民サービスを提供されているが、虐待の対応は、区が行っている様々な業務の中のひとつであり、対応件数が非常に多いので兼務の体制は厳しいと思う。

古谷議員：海側の地区でアメリカカンザイシロアリが非常に多く飛んでいるが、何か対応が必要ではないか。

相田生活衛生課長：30年10月の広報よこはまでシロアリの見分け方などの周知はしているが、相談があった場合は必要に応じて現地を確認して駆除業者を紹介するといった方法で対応している。

古谷議員：区としても現状を把握してもらいたい。

尾崎議員：小学校向けの横浜市防災センター見学会の予算額と実施する小学校が何校か伺いたい。

今仁総務課長：予算はバス代として60万円を計上している。今年度は、年間で6校程度予定しており、すでに2校の実施が決定している。

尾崎議員：災害時要援護者支援の仕組みづくりで情報共有方式を導入して5年が経過したが、現在どのような課題があるか。

坪山高齢・障害支援課長：情報共有方式は少しずつ導入されているが、地域によって取り組んでいる状態が異なるので、他の地域の取組の紹介や負担にならないような見守り方法などの情報提供を行い、地域に合った支援を検討していただいているところである。

尾崎議員：地域では、担い手不足という問題も抱えているので、丁寧に支援してほしい。

尾崎議員：千客万来つるみプロモーション事業のクルーズ船の対応で人を呼び込むということだが、現状では駐車場もない状況で集客はどのようにしていくのか。

飯島区政推進課長：交通アクセスについて鶴見及び横浜からのバスの本数が少ないことやスカイウォークの下にスペースはあるが駐車場が少ないことが課題である。横浜市として、港湾局、交通局とアクセス対策をどのように対応するのか改善する手段を検討していきたい。

尾崎議員：認知症対策の計画の中で鶴見区内の病院の役割などの取り決めはあるか。

坪山課長：区内や近隣区の病院・関係機関が参加する認知症疾患医療連携協議会を東部病院で年に2回ほど開催し、その中で様々な課題等を話し合い、検討しているところもあるが、区内の病院の役割の取り決めといったものはない。

尾崎議員：ひきこもりなどの実態について把握している状況とその対策を聞かせてほしい。

伊藤生活支援課長：ひきこもりの人数は、具体的に出ていないが30年3月に発表した横浜市全体の推計人数は15歳から39歳の方は約15,000人、40歳から64歳の方は約12,000人なので鶴見区の年齢別人口から算出すると15歳から39歳の方は1,220人、40歳から64歳の方は924人であり、約2,000の方がひきこもり状態にあると推測される。

尾崎議員：実態把握は難しいと思うが、先日の事件では引きこもりの傾向にあったという話も聞くので、相談の窓口である区でできることはあるのか。

伊藤生活支援課長：生活支援課では生活困窮者自立支援制度などもあるので相談窓口の対象となるが、引きこもりの方自身が相談に来ることはないと聞いている。区も出向くという発想もあるが、そのような家庭がどこにあるか不明なので非常に難しい。生活支援自立支援制度の周知が大事なので全市的に取り組んでいるが、広報などで周知するだけでは区民に伝わることは難しく、何をやったら良いかは各区の課題であり難しいと認識している。

坪山高齢・障害支援課長：高齢・障害支援課では、高齢化する引きこもり問題に伴い、30年度は引きこもりに関する当事者の話を聞くなどの研修を行い、まず関係者が引きこもりについて理解していくため、今年度も広く研修を行う予定である。昨年度は、48件の引きこもりの相談を受け

	<p>て対応したが、地域でも引きこもりに関わる方が話し合いの場を持つことも広がってきているので、区でも本人や家族の支援に力を入れ、関係機関と協力しながら進めていきたい。</p> <p>井上議員：多文化共生事業に関連し、日本語教室などの学習支援教室の希望者が増え、場所の確保やボランティアの人材確保が難しい状況だと聞いている。外国籍につながる子どものサポートとして、国際交流ラウンジのサテライト的に地区センターや地域ケアプラザを利用して場所を確保するなど、区でも支援をしていただきたい。</p> <p>岩田地域振興課長：国際交流ラウンジは、国際局の予算と区づくり推進費予算で運営している。区づくり推進費の自主事業費では、学習支援教室の中学生の実施回数を増やすなど強化を図るため、約200万円を増額したが、今後も国際局とどのように関わっていくか来年度予算編成に向けて調整していきたい。</p> <p>井上議員：鶴見区は市内でも国際交流事業を先駆的に実施してきており、また国が制度改正したこともあるので、是非お願いしたい。</p> <p>井上議員：青少年の居場所運営支援事業の補助金は、区内5か所が対象とあるが、こども食堂や学習支援など他にも対象があるのではないか。実施団体の自主性を大切にしながら支援していただきたいが、どのように考えているのか。</p> <p>岩田地域振興課長：青少年の居場所運営支援事業の補助金は、地区センターや自治会館などを活用して地域の中の大人と青少年や青少年同士の交流の場となるような遊び場として自主的に運営する事業の補助であり、こども食堂といった福祉的な事業の補助ではない。現在、福祉的な視点も必要になってきているので、この事業のあり方については議論していきたい。</p>
<p>備 考</p>	